

新ユニット・リンク保険(有期型)【無配当】(一時払)
ライフドゥ

LifeDO

ライフドゥ80

LifeDO₈₀

月次運用実績レポート

2012年2月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株投資力学ファンド	日興アクティブ・ダイナミクス (投資力学)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株ジパングファンド	日興ジャパンオープン(ジパング)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株エボリューションファンド	日興エボリューション	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (運用再委託会社)ファンネクス・アセット・マネジメント株式会社
日本株インデックス225ファンド	インデックスファンド225	日興アセットマネジメント株式会社
日本株インデックスTOPIXファンド	インデックスファンドTSP	日興アセットマネジメント株式会社
グローバルグロースファンド	G グロース	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (運用再委託会社)ウェリントン・マネジメントカンパニー・エルエルピー
グローバルソブリン債券ファンド	日興・GS 世界ソブリン・ファンド VA	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (投資助言会社)ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
グローバルリートファンド	日興・AMP グローバル REIT ファンド (6ヶ月決算型)	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (投資再委託会社)AMPキャピタル・インベスターズ・リミテッド
グローバルカレンシーファンド	メロン・オフショア・ファンズ・ 日興グローバル・カレンシー・ファンド(円建クラス)	(管理会社)BNYメロン・インターナショナル・マネジメント・リミテッド (投資運用会社)BNYメロン・アセット・マネジメント・インターナショナル・リミテッド (副投資運用会社)メロン・キャピタル・マネジメント・コーポレーション
マネーファンド	日興 MRF (マネー・リザーブ・ファンド)	日興アセット・マネジメント株式会社

<引受保険会社>

<募集代理店>
SMBC日興証券株式会社

アクサ生命保険株式会社 

redefining / standards



SMBC日興証券

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL 0120-933-399
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

<特別勘定の種類>

日本株投資力学ファンド

日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をトップダウンで選択する投資信託に主に投資することによって東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

運用実績<ユニット・プライス*>の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株投資力学ファンド	10.21%	13.97%	7.51%	▲11.37%	6.75%	▲15.85%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.4
投資信託	97.6
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)

日本株投資力学ファンドの主な投資対象である投資信託「日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

設定日2000年12月15日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)	14.39%	7.88%	▲11.26%	7.84%	▲46.35%
TOPIX	14.76%	8.48%	▲12.12%	10.47%	▲39.08%

基準価額の騰落率は、分配金(税引き前)を再投資し計算しています。

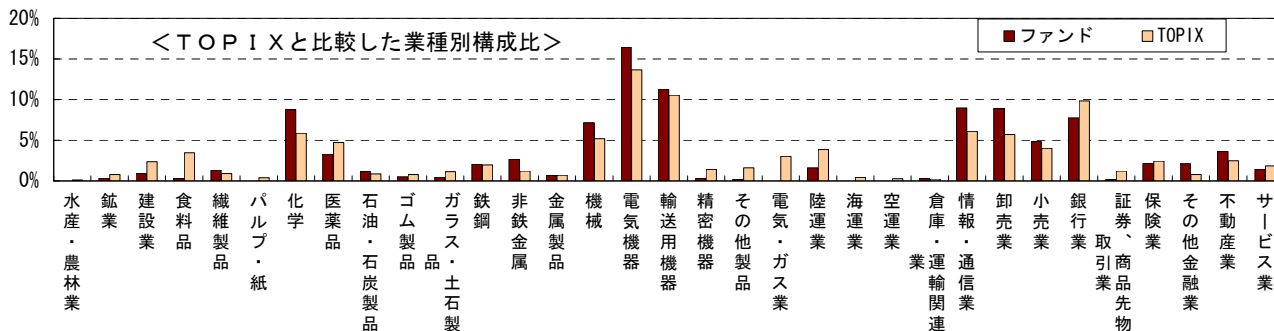
<資産構成比率>

	2012年2月末
株式	95.3%
うち先物	0.0%
現金その他	4.7%

<株式組入上位10銘柄>(銘柄数 131銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	日立製作所	電気機器	3.38%
2	トヨタ自動車	輸送用機器	3.30%
3	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	3.28%
4	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.06%
5	三井物産	卸売業	2.91%
6	小松製作所	機械	2.57%
7	本田技研工業	輸送用機器	2.57%
8	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.37%
9	キャノン	電気機器	2.17%
10	武田薬品工業	医薬品	2.00%

<TOPIXと比較した業種別構成比>



※「資産構成比率」、「株式組入上位10銘柄」は純資産総額、「業種別構成比」は組入株式の評価額の合計を100%として計算したものです。
 ※「株式組入上位10銘柄」、「業種別構成比」はマザーファンドの状況です。

<運用コメント>

今月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比プラス10.68%と大幅に上昇しました。当月は、米国の予想を上回る経済指標の発表を受け上昇して始まりました。14日には日銀が「実質的なゼロ金利政策と金融資産の買い入れ等の措置により、強力に金融緩和を推進していく」と表明し、金融資産等の買入基金を10兆円増額したことを受け、流動性が高まることへの期待感から投資家の買い意欲が高まりました。月末にかけては、ギリシャへの追加支援が決定し、当面のデフォルト危機が回避されたことへの安心感やアメリカドル・ユーロに対する円安の進行から、株価は一段高となりました。東証33業種分類では、すべての業種で前月末比上昇しました。

今月の主な投資行動としては、長らく続いた円高トレンドの是正の動きを想定し、輸出関連株の組み入れを増加させました。また、欧州債務問題の落ち着きを受け、これまで大きく売り込まれていた金融株の買い戻しを行いました。一方、株価が大きく上昇し、適正価格を上回ったと判断された銘柄の利益確定売りを行いました。

好業績を発表した機械株やこれまで大きく売り込まれた企業の株価上昇がプラスに寄与した一方、大幅に上昇した証券株や一部の電機株の非保有がマイナスに寄与し、0.20%のアンダーパフォーマンスとなりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉

日本株ジパングファンド

日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をボトムアップで選択する投資信託に主に投資することによって東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目標とします。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
日本株ジパングファンド	10.47%	13.65%	8.18%	▲10.46%	23.61%	6.12%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.5
投資信託	97.5
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興ジャパンオープン(ジパング)

日本株ジパングファンドの主な投資対象である投資信託「日興ジャパンオープン(ジパング)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

設定日1998年8月28日

	3か月	6か月	1年	3年	設定来
日興ジャパンオープン(ジパング)	14.04%	8.51%	▲10.37%	24.96%	▲30.48%
TOPIX	14.76%	8.48%	▲12.12%	10.47%	▲25.16%

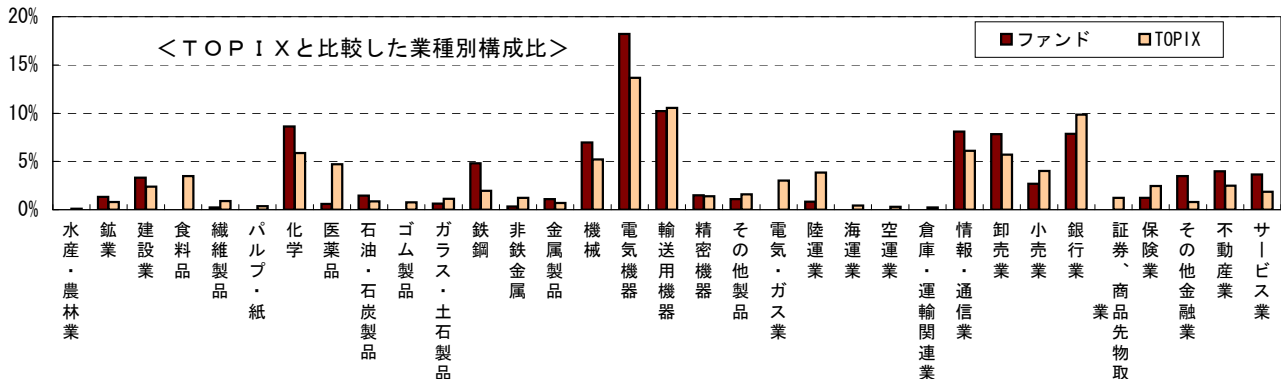
基準価額の騰落率は、分配金(税引き前)を再投資し計算しています。

〈資産構成比率〉

	2012年2月末
株式	98.1%
うち先物	0.0%
現金その他	1.9%

〈株式組入上位10銘柄〉(銘柄数 98銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.53%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.25%
3	キヤノン	電気機器	3.07%
4	日立製作所	電気機器	2.54%
5	小松製作所	機械	2.45%
6	三井物産	卸売業	2.39%
7	本田技研工業	輸送用機器	2.34%
8	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.27%
9	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	2.21%
10	新日本製鐵	鉄鋼	2.03%



※「資産構成比率」、「株式組入上位10銘柄」は純資産総額、「業種別構成比」は構成株式の評価額の合計を100%として計算したものです。
 ※「株式組入上位10銘柄」、「業種別構成比」はマザーファンドの状況です。

〈運用コメント〉

2月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比プラス10.68%、日経平均株価は同プラス10.46%と大幅に上昇しました。当月は、米国の予想を上回る経済指標の発表を受け上昇して始まり、14日には日銀が「実質的なゼロ金利政策と金融資産の買入れ等の措置により、強力に金融緩和を推進していく」と表明し、金融資産等の買入基金を10兆円増額したことなどをを受け、流動性が高まることへの期待感から投資家の買い意欲が高まりました。月末にかけては、ギリシャへの追加支援が決定し、当面のデフォルト危機が回避されたことと判断した情報・通信、小売、医薬品などの一部を売却する一方で、来期以降の業績回復が期待できる機械、鉄鋼、化学の一部などを買付けました。このような運用の結果、当月末における当ファンドの基準価額は前月末比でプラス10.75%となり、TOPIXのプラス10.68%を若干上回りました。

当ファンドでは、成長分野での高い競争力や事業再編効果などによって今後の業績拡大が期待できる企業の選別を進め、株価の割安性も重視した運用を行ないました。中期的な観点から、世界で高いシェアを持つ企業や、構造改善によって今後の業績回復ペースが早いと見られる企業に重点を置いた運用を行なっています。今月の主な投資行動としては、株価の割安感が薄れたと判断した情報・通信、小売、医薬品などの一部を売却する一方で、来期以降の業績回復が期待できる機械、鉄鋼、化学の一部などを買付けました。このような運用の結果、当月末における当ファンドの基準価額は前月末比でプラス10.75%となり、TOPIXのプラス10.68%を若干上回りました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉 日本株エポリューションファンド

全世界の経済動向および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる国内株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することによって、中長期的な投資成果を積極的にあげることが目標にします。

運用実績〈ユニット・プライス〉の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株エポリューションファンド	9.69%	12.57%	▲3.12%	▲21.61%	4.46%	▲35.69%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	1.3
投資信託	98.7
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興エポリューション

日本株エポリューションファンドの主な投資対象である投資信託「日興エポリューション」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

設定日2000年4月21日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日興エポリューション	12.82%	▲3.02%	▲21.68%	5.65%	▲66.35%

基準価額の騰落率は、分配金(税引き前)を再投資し計算しています。

〈株式組入上位10銘柄〉 (銘柄数 41銘柄)

	銘柄	通貨	業種	比率
1	アンリツ	日本円	電気機器	8.58%
2	富士重工業	日本円	輸送用機器	6.43%
3	太平洋セメント	日本円	ガラス・土石製品	5.74%
4	遠藤照明	日本円	電気機器	5.03%
5	東京建物	日本円	不動産業	4.46%
6	DOWAホールディングス	日本円	非鉄金属	4.23%
7	いすゞ自動車	日本円	輸送用機器	3.57%
8	アイシン精機	日本円	輸送用機器	3.28%
9	三菱重工業	日本円	機械	3.12%
10	住生活グループ	日本円	金属製品	3.08%

※「株式組入上位10銘柄」は純資産総額を100%として計算したものです。

〈投資テーマ別組入状況〉

投資テーマ	比率
新消費・サービス産業	6.3%
インテリジェント・ロボティクス	13.8%
コンテンツ/ネットワーク・サービス	18.9%
ジャパン・リサイクル(日本再生)	23.6%
ニュー・ライフスタイル・クリエーション	5.0%
新エネルギー・環境サービス産業	32.4%
その他	0.0%

※2006年7月31日付けのレポートより「投資テーマ」の分類を変更しております。

※「投資テーマ別組入状況」は組入株式の評価額の合計を100%として計算しています。

〈運用コメント〉

◎当月の運用概況

2月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比プラス10.68%、日経平均株価は同プラス10.46%と大幅に上昇しました。当月は、米国の予想を上回る経済指標の発表を受け上昇して始まりました。14日には日銀が「実質的なゼロ金利政策と金融資産の買い入れ等の措置により、強力に金融緩和を推進していく」と表明し、金融資産等の買入基金を10兆円増額したことを受け、流動性が高まることへの期待感から投資家の買い意欲が高まりました。月末にかけては、ギリシャへの追加支援が決定し、当面のデフォルト危機が回避されたことへの安心感やアメリカドル・ユーロに対する円安の進行から、株価は一段高となりました。東証33業種分類では、すべての業種で前月末比上昇しました。

このような環境下、「日興エポリューション」は前月末比プラス9.85%となりました。1月に引き続き利益確定売りが予想されたインターネット関連株(ネットワーク・コンテンツ関連銘柄)のポジションを減らし、割安に放置されていると思われる銘柄のウェイトを引き上げました。月間の寄与度で見ると、上位には米国販売好調・円安メリット・来期の業績回復などが評価されている自動車関連企業などがいった一方、下位には国内テレビ販売不振により大幅赤字を計上した民生機器企業などが入りしました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉

日本株インデックス225ファンド

国内上場株式に投資することにより、日経平均株価指数に連動した投資成果をあげることを目指します。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株インデックス225ファンド	10.33%	15.16%	9.16%	▲7.20%	32.22%	17.46%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	0.9
投資信託	99.1
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

インデックスファンド225

日本株インデックス225ファンドの主な投資対象である投資信託「インデックスファンド225」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
インデックスファンド225	15.37%	9.35%	▲7.08%	33.61%
日経225	15.28%	8.58%	▲8.48%	28.47%

基準価額の騰落率は、分配金(税引き前)を再投資し計算しています。

〈国内株式組入上位5業種〉

	業種	比率
1	電気機器	21.5%
2	小売業	9.7%
3	情報・通信業	8.5%
4	輸送用機器	7.1%
5	医薬品	6.6%

〈資産構成比率〉

株式	99.8%
うち先物	1.7%
現金その他	1.9%

- ※ 「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」の比率は純資産総額を、「株式組入上位5業種」の比率は組入株式の評価額の合計を、それぞれ100%として計算したものです。
- ※ 「株式組入上位5業種」「株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。業種は東証33業種分類によるものです。
- ※ 「資産構成比率」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

〈株式組入上位10銘柄〉(銘柄数: 225銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	ファーストリテイリング	小売業	6.89%
2	ファナック	電気機器	6.03%
3	ソフトバンク	情報・通信業	2.97%
4	京セラ	電気機器	2.94%
5	本田技研工業	輸送用機器	2.53%
6	キヤノン	電気機器	2.26%
7	KDDI	情報・通信業	2.11%
8	東京エレクトロン	電気機器	1.85%
9	信越化学工業	化学	1.78%
10	TDK	電気機器	1.74%

〈運用コメント〉

2月の国内株式市場は、日経平均株価は前月末比プラス10.46%と大幅に上昇しました。当月は、米国の予想を上回る経済指標の発表を受け上昇して始まりまし。14日には日銀が「実質的なゼロ金利政策と金融資産の買い入れ等の措置により、強力に金融緩和を推進していく」と表明し、金融資産等の購入基金を10兆円増額したことを受け、流動性が高まることへの期待感から投資家の買い意欲が高まりました。月末にかけては、ギリシャへの追加支援が決定し、当面のデフォルト危機が回避されたことへの安心感やアメリカドル・ユーロに対する円安の進行から、株価は一段高となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

<特別勘定の種類>

日本株インデックスTOPIXファンド

国内上場株式に投資することにより、東証株価指数に連動した投資成果をあげることが目標になります。

運用実績<ユニット・プライス*>の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株インデックス TOPIXファンド	10.44%	14.43%	9.11%	▲10.57%	14.40%	2.70%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	1.7
投資信託	98.3
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

インデックスファンドTSP

日本株インデックスTOPIXファンドの主な投資対象である投資信託「インデックスファンドTSP」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
インデックス ファンドTSP	14.76%	9.40%	▲10.57%	15.47%
TOPIX	14.76%	8.48%	▲12.12%	10.47%

基準価額の騰落率は、分配金(税引き前)を再投資し計算しています。

<資産構成比率>

株式	100.0%
うち先物	2.0%
CB	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	2.0%
外貨建て資産	0.0%

<国内株式組入上位5業種>

	業種	比率
1	電気機器	13.7%
2	輸送用機器	10.5%
3	銀行業	9.9%
4	情報・通信業	6.1%
5	化学	5.9%

※「資産構成比」、「国内株式組入上位10銘柄」の比率は対純資産総額、「国内株式組入上位5業種」の比率は対組入株式時価総額です。

※「国内株式組入上位5業種」、「国内株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。

<国内株式組入上位10銘柄>(銘柄数 1640銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.80%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.74%
3	本田技研工業	輸送用機器	2.28%
4	キャノン	電気機器	2.00%
5	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.80%
6	日本電信電話	情報・通信業	1.52%
7	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.51%
8	ファナック	電気機器	1.34%
9	武田薬品工業	医薬品	1.26%
10	三菱商事	卸売業	1.25%

<運用コメント>

◎運用概況

当ファンドはTOPIX(東証株価指数)に連動した投資成果をめざすファンドです。実際の運用は、「インデックス マザーファンド TOPIX」受益証券を高位に組入れ、株式先物を利用して実質株式組入比率を100%程度で推移させています。「インデックス マザーファンド TOPIX」では、「バーラ 日本株式モデル」を使用して1,600銘柄程度に投資し、TOPIXへの連動性の高いポートフォリオを構築するとともに、株式先物を利用して実質の株式組入比率を100%程度で推移させています。

2月における当ファンドの基準価額は、TOPIXの10.68%の上昇に対し、10.65%の上昇となりました。今後もこれまでの運用方針を継続し、TOPIXに連動した投資成果を目指します。

◎株式市況

2月の国内株式市場は、TOPIXが前月末比プラス10.68%と大幅に上昇しました。当月は、米国の予想を上回る経済指標の発表を受け上昇して始まりました。14日には日銀が「実質的なゼロ金利政策と金融資産の買い入れ等の措置により、強力に金融緩和を推進していく」と表明し、金融資産等の買入基金を10兆円増額したことを受け、流動性が高まることへの期待感から投資家の買い意欲が高まりました。月末にかけては、ギリシャへの追加支援が決定し、当面のデフォルト危機が回避されたことへの安心感や円安の進行から、株価は一段高となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

<特別勘定の種類> グローバルグロースファンド

日本を含む世界主要先進国の株式のなかから特に世界的に競争力に優れた成長企業の株式に投資し、外貨建ベースの優れた収益の獲得を目指す投資信託に主に投資することによって、中長期的な観点から、日本を含む世界主要先進国の株式市場全体(MSCI ワールド指数)の動きを上回る投資成果の獲得を目指します。

運用実績<ユニット・プライス*>の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2003年7月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバルグロースファンド	13.15%	22.79%	15.47%	▲3.44%	40.27%	▲6.37%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.2
投資信託	97.8
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

Gグロース

グローバルグロースファンドの主な投資対象である投資信託「Gグロース」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

設定日2001年4月20日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
Gグロース	23.48%	16.01%	▲3.39%	42.02%	▲23.00%
MSCI ワールド指数	18.06%	14.52%	▲4.08%	40.73%	▲22.98%

基準価額の騰落率は、分配金(税引き前)を再投資し計算しています。

<資産構成比>

国内株式(先物含む)	4.4%
外国株式(先物含む)	91.9%
CB	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	3.8%

<株式組入上位10銘柄>(銘柄数 72銘柄)

	銘柄	通貨	業種	比率
1	APPLE COMPUTER INC	アメリカドル	テクノロジー・ハードウェア	4.9%
2	ORACLE CORP	アメリカドル	ソフトウェア・サービス	2.6%
3	EMC CORP/MASS	アメリカドル	テクノロジー・ハードウェア	2.5%
4	EBAY INC	アメリカドル	ソフトウェア・サービス	2.0%
5	SANDS CHINA LTD	香港ドル	消費者サービス	1.9%
6	JPMORGAN CHASE & CO	アメリカドル	各種金融	1.8%
7	ANGLO AMERICAN PLC	イギリスポンド	素材	1.7%
8	PRICELINE.COM INC	アメリカドル	小売	1.7%
9	REGENERON PHARMACEUTICALS	アメリカドル	医薬品・バイオテクノロジー	1.6%
10	STANDARD CHARTERED PLC	イギリスポンド	銀行	1.6%

<国別投資比率上位5カ国>

1	アメリカ	60.8%
2	イギリス	6.1%
3	フランス	4.5%
4	日本	4.4%
5	スイス	3.5%

※「株式組入上位5カ国」「株式組入上位10銘柄」の比率は、マザーファンドの状況で、対純資産総額比です。「資産構成比」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

<運用コメント>

2月のグローバル株式市場は先月に引き続き上昇しました。米国市場は、前半は雇用統計などの経済指標が市場予想を大幅に上回り米国景気の緩やかな回復基調の継続が示されたことから上昇しました。後半も期限切れを迎える社会保障減税などが年末まで延長されたことや、ギリシャ債務不安の沈静化により上昇しました。欧州市場は、前半はEU(欧州連合)首脳会議で財政規律強化が合意されたことなどから上昇しました。後半は第二次ギリシャ支援合意への期待から上昇しましたが、ユーロ圏財務相が支援への合意を正式に発表した後は材料出尽くし感から揉み合いました。

このようななか、ボトムアップによる銘柄選択に基づき、素材セクターの銘柄およびエネルギーセクターの銘柄などを積み増した一方、ヘルスケアセクターの銘柄などを売却しました。素材セクターでは、メキシコのセメント・建設素材大手を新たに組み入れました。セメントの売り上げ数量および価格は、特に先進国で回復を続ける傾向が見られます。エネルギーセクターでは、直近に天然ガス会社が市場で売られた状況を捉えて、天然ガス、液化天然ガス、石油を生産する米国大手を積み増しました。ヘルスケアセクターでは、C型肝炎治療薬を主力とするバイオ製薬会社が年初来の相対パフォーマンスに寄与したことから、利益確定のため全株売却しました。

2月末現在、ベンチマーク対比でオーバーウェイトとしているセクターは、情報技術、一般消費財・サービス、資本財・サービス、対してアンダーウェイトとしているのは生活必需品、金融、公益事業です。

今後も銘柄選択ならびにセクター選択を重視し、世界のリーディング・カンパニーの経営陣との面談を続け、社内のリサーチ資源を幅広く活用し、徹底的なボトムアップ調査を行なっていきます。世界的な競争力を有し、地域市場におけるリーダー格の、質の高い成長型企業を選別し、投資を行ないます。

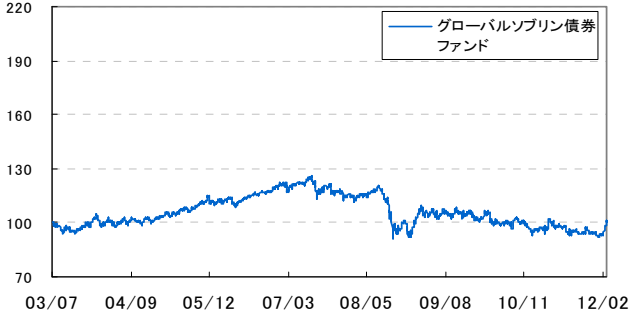
※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉 グローバルソブリン債券ファンド

世界先進国の信用度の高いソブリン債(※)を中心に分散投資する投資信託に主に投資することによって、安定した収益の確保と長期的な成長を目指します。(※ソブリン債とは、各国政府や政府機関が発行する債券の総称です。主要先進国の国債や世界銀行、アジア開発銀行などの国際機関が発行する債券が含まれます。)

運用実績<ユニット・プライス*>の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2003年7月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
グローバルソブリン債券ファンド	7.74%	7.18%	5.77%	5.21%	▲0.02%	0.90%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.6
投資信託	97.4
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興・GS世界ソブリン・ファンドVA

グローバルソブリン債券ファンドの主な投資対象である投資信託「日興・GS世界ソブリン・ファンドVA」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率> 設定日2003年6月30日

	3か月	6か月	1年	3年	設定来
日興・GS世界ソブリン・ファンドVA	7.44%	6.06%	5.57%	0.66%	▲0.30%

*基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

<ファンド情報>

平均格付	AA+
平均クーポン	6.50%
平均利回り	1.20%

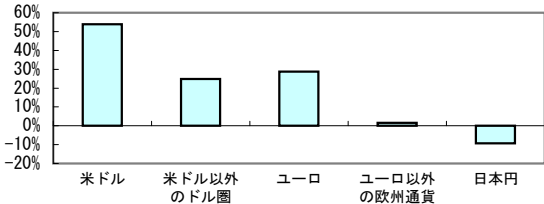
*格付けは、スタンダード・アンド・プアーズ社によるものを原則としています。

<債券組入銘柄>

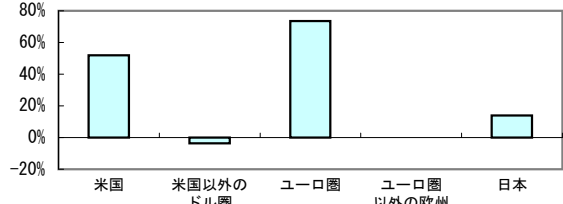
	銘柄名	クーポン	償還日	通貨	格付	構成比
1	ドイツ国債	6.25%	2024/1/4	ユーロ	AAA	20.2%
2	ドイツ国債	6%	2016/6/20	ユーロ	AAA	17.4%
3	アメリカ国債	8.75%	2020/8/15	米ドル	AA+	16.6%
4	ドイツ国債	4.25%	2018/7/4	ユーロ	AAA	11.0%
5	アメリカ国債	8.875%	2017/8/15	米ドル	AA+	9.0%
6	アメリカ国債	11.25%	2015/2/15	米ドル	AA+	8.3%

※「債券組入銘柄」の比率は純資産総額を100%として計算したものです。※下記の「通貨比率」および「債券地域別比率」は、運用委託先のゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントから提供を受けた直近の資産配分変更時のモデル・ポートフォリオの配分を示しています。実際の金額配分は下記とは異なる場合があります。

<通貨比率>



<債券地域別比率>



<運用コメント>

◎2月の市場動向

<債券市場>

債券市場は小幅に上昇しました。本ファンドの運用戦略のひとつである債券国別配分戦略において評価対象としている主要債券市場の中では、オーストラリア、カナダなどの市場が下落(利回りは上昇)する一方で、日本やユーロ圏市場は堅調に推移しました。

各国の国債利回り推移を見ると、オーストラリア10年国債利回りは前月末の3.7%台前半から世界的に株式市場が堅調さを示す中で4.1%台前半まで上昇し、下旬には若干低下傾向を見せたものの、結局3.9%台後半で月を終えました。一方、ドイツ10年国債利回りは前月末の1.8%近辺とほぼ同じ水準で月を終えました。日本10年国債利回りは、月を通じて1.0%を若干下回る水準で横ばいの推移となりました。

<為替市場>

為替市場は、多くの主要通貨が円に対して上昇しました。本ファンドの運用戦略のひとつである通貨配分戦略において評価対象としている主要通貨のうち、対円上昇率が大きかったのは、ノルウェー・クローネやスウェーデン・クローナで、それぞれ10.3%程度の上昇、8.7%程度の上昇となりました。

ノルウェー・クローネは前月末の1ノルウェー・クローネ=13円近辺からほぼ一貫して上昇し、月末には14円台半ばとなりました。スウェーデン・クローナも同様の展開となり、前月末の1スウェーデン・クローナ=11円台前半から12円台前半まで上昇して月を終えました。

◎投資対象の評価

<資産間配分>

債券に対して、モメンタムの観点で評価が高いことから強気の見通しとしています。

<債券国別配分>

ユーロ圏に対しては、マクロならびにバリュウの観点から強気の見通しとしています。日本に対しては、バリュウならびにモメンタムの観点から強気の見通しとしています。英国に対しては、マクロの観点から弱気の見通しとしています。

<通貨配分>

米国に対しては、タイミングの観点から強気の見通しとしています。ニュージーランドに対しては、資金フローの観点から強気の見通しとしています。ユーロに対しては、資金フローの観点から弱気の見通しとしています。日本に対しては、バリュウの観点から弱気の見通しとしています。

(注)上記見通しは直近の資産配分変更時でのゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの見解ですが、将来予告なしに変更することもあり、また、将来の結果を保証するものではありません。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉 グローバルリートファンド

世界各国の上場不動産投信（REIT = Real Estate Investment Trust）を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に高い投資成果をあげることを目標とします。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

* ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点（2004年7月12日始）を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバルリートファンド	6.51%	16.98%	10.56%	2.79%	85.82%	10.16%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.3
投資信託	97.7
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興・AMPグローバルREITファンド(6ヵ月決算型)

グローバルリートファンドの主な投資対象である投資信託「日興・AMPグローバルREITファンド(6ヵ月決算型)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

* 設定日は2004年7月1日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
Gリート	17.36%	10.77%	3.03%	91.78%	18.43%

〈不動産投信 国別上位投資比率〉(銘柄数69銘柄)

	国名	比率
1	アメリカ	60.6%
2	オーストラリア	13.7%
3	日本	7.4%
4	イギリス	5.6%
5	フランス	5.0%
6	カナダ	3.1%
7	シンガポール	2.6%
8	オランダ	0.9%
9	香港	0.9%
10	ドイツ	0.2%

※マザーファンドの状況です。
※比率は、対組入不動産投信時価額比です。

〈資産構成比〉

不動産投信	95.2%
現金その他	4.8%

〈組入不動産投信の予想配当利回り(年率換算)〉

ファンド全体	4.53%
地域別	
アメリカ	3.65%
カナダ	4.69%
オーストラリア	6.87%
欧州	6.09%
イギリス	4.66%
その他	5.52%

※左記予想配当利回りは、月末時点で組入れている各不動産投信の予想配当利回りをマザーファンド全体、あるいは地域別で不動産投信時価額のウェイトで加重平均したものです。
※「地域別」の利回りは、2010年6月30日データより「投資対象国現地で支払う税金控除前」に変更しました。
※「ファンド全体」の利回りは、2010年6月30日データより「信託報酬(年率1.575%(税抜1.5%) 控除前)」に変更しました。
※左記はAMPキャピタル・インベスターズ・リミテッドの予想であり、当ファンド及び組入不動産投信の利回り、運用成果等について何ら保証をするものではありません。

〈基準価額騰落の要因分解〉

前月末基準価額	5,031円
当月お支払いした分配金	0円
要	
不動産投信	53円
アメリカ	(-5円)
カナダ	(5円)
オーストラリア	(5円)
欧州	(-4円)
イギリス	(-0円)
その他	(51円)
為替	290円
米ドル	(173円)
加ドル	(10円)
豪ドル	(51円)
ユーロ	(25円)
英ポンド	(19円)
その他	(11円)
その他	-7円
小計	335円
当月末基準価額	5,366円

※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧下さい。

〈運用コメント〉

◎2月のREIT市場について

2月のグローバルREIT市場は、世界的な投資家信頼感の回復を受けて堅調な展開となりました。北米市場は企業業績発表にポジティブなニュースが少なく、横ばいとなりました。ただし、引き続き米国の各種指標は好調であり、米国の経済回復は順調に進行しているとファンドでは見えています。先月に続き活発なM&A活動が見られた豪州市場は若干の上昇となりました。企業業績発表が相次いだ当月、市場予測を下回る発表が多く見られましたが、ディフェンシブ性の強さと信頼感を改めて示しました。欧州では、欧州大陸市場が横ばい、英国市場が若干の上昇となりました。欧州中央銀行による2度目の3年物長期流動性供給オペ(LTRO)が実行され、欧州における資金供給は一段落を迎えましたが、欧州を取り巻く懸念に大きな改善は見られません。アジア主要3市場は、日銀による追加金融緩和により大幅上昇した日本、中国政府による銀行預金準備率引き下げの報を受け中国にエクスポージャーを持つ銘柄の上昇にけん引される形で上昇となったシンガポール、投資家信頼感の改善により大幅上昇となった香港と、3市場とも上昇となりました。

◎運用の概況

米国市場では、2011年後半に売られ過ぎたため割安感があつたオフィスREITを追加購入した一方、バリュエーションが上昇している小売REITなどを一部売却しました。また、欧州大陸市場では、現在のマクロ環境に強いと見られるフランスの分散REITや、英国の分散REITなどを購入した一方、バリュエーションが上昇していたフランスやオランダの分散REITなどを売却しました。

◎今後の見通しと運用方針

需要が回復基調にあるものの供給レベルが低い状態の継続によりREIT市場は2012年を通して堅調に推移すると予想され、年初来のREIT市場の動きはそれを示唆するものとファンドは考えます。米国市場では、昨年売り込まれ割安感があつた銘柄に加え、安定したパフォーマンスを上げている優良企業に注目します。テクノロジー系企業による需要増が見込まれる西海岸のオフィス・セクターも注視する所存です。豪州市場では、短期的な市場動向により売り込まれたものの中期的に好配当が見込まれる優良企業を中心に組入れを行います。欧州市場については、割安感の高い銘柄が数多く見られるとはいえ、市場を取り巻く不透明感が払拭されたとは言えないため、引き続き質を重視した慎重な銘柄選択を徹底します。アジア市場に関しては、ファンダメンタルズ(基礎的条件)改善と各国政府による金融緩和が今後も市場を押し上げると考えられます。そのようななか、ファンドは引き続きボトム・アップ手法の観点から抽出された割安感のある優良銘柄に焦点を当てます。

(当ファンドのマザーファンドを運用しているAMPキャピタル・インベスターズ・リミテッドのコメントをもとに作成)

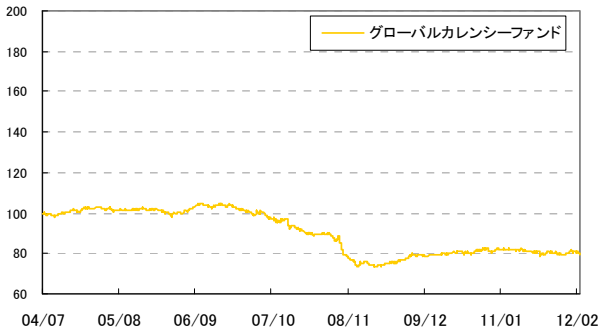
※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉 グローバルカレンシーファンド

短中期債を主な投資対象とし、通貨運用により超過収益を追求する投資信託に主に投資することにより、短期金利を上回る投資成果をあげることが目標になります。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

* ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2004年7月12日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバルカレンシーファンド	▲1.50%	0.36%	▲0.06%	▲2.59%	6.36%	▲20.34%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現金・その他	4.6
投資信託	95.4
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

メロン・オブショア・ファンズ-日興グローバル・カレンシー
 グローバルカレンシーファンドの主な投資対象である投資信託「メロン・オブショア・ファンズ-日興グローバル・カレンシー・ファンド(円建クラス)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:BNYメロン・インターナショナル・マネジメント・リミテッド)

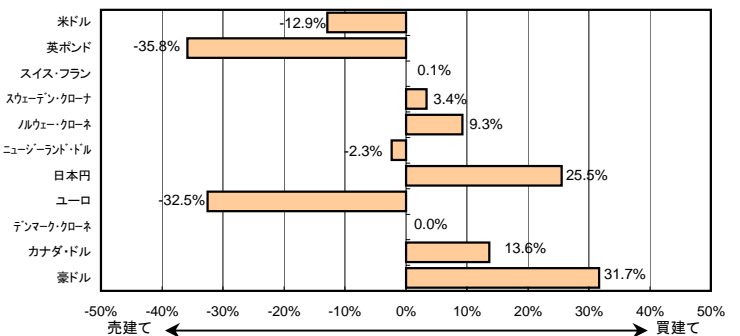
〈通貨比率〉

〈基準価額の騰落率〉

* 設定日は2003年11月25日

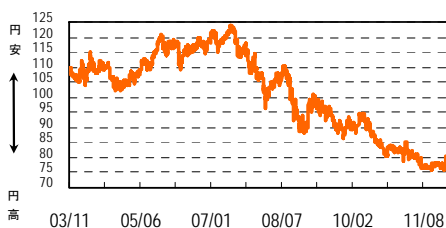
	3ヵ月	6ヵ月	1年	5年	設定来
Gカレンシー	0.19%	▲0.07%	▲2.72%	▲23.91%	▲19.88%

* 分配金込み一戸あたり純資産総額のパフォーマンス

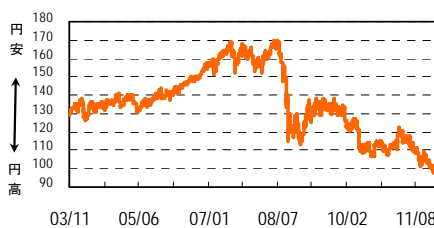


〈為替市場の推移〉

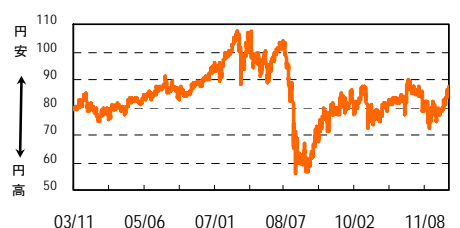
(円/米ドル・レート、単位:円)



(円/ユーロ・レート、単位:円)



(円/豪ドル・レート、単位:円)



〈運用コメント〉

・市場環境

当月、全ての投資対象通貨が対日本円で上昇しました。上昇率の高い順に、ノルウェー・クローネ、スウェーデン・クローナ、スイス・フラン、ユーロ、ニュージーランド・ドル、豪ドル、英ポンド、カナダ・ドル、米ドルとなりました。米国では、米ドルが日本円を除く全ての投資対象通貨に対して下落しました。当月(2月)、米連邦公開市場委員会(FOMC)は開催されず、政策金利の誘導目標は0~0.25%の範囲に維持されました。中旬に発表された1月のFOMC議事録では、数名のメンバーが、米経済を支えるために近いうちにFRB(米連邦準備制度理事会)が追加的な債券買入れを実施する必要があるとの認識を示していたことが明らかになりました。2011年10-12月期の実質GDP成長率(改訂値、年率)は前期比+3.0%と、速報値の+2.8%から0.2ポイント上方修正されました。1月の雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比24.3万人の増加と市場予想を上回り、失業率も8.3%と前月比0.2ポイント改善しました。日本では、日本円が全ての投資対象通貨に対して下落しました。日本銀行は当月(2月)、金融政策決定会合で政策金利を0.0~0.1%に据え置くとともに、全員一致で資産買入基金を10兆円程度増額し、55兆円程度から65兆円程度とすることを決定しました。2011年10-12月期の実質GDP成長率(速報値、年率)は前期比▲2.3%と、前期の+7.0%からマイナスに転じるとともに、事前予想を上回るマイナス幅となりました。12月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は前月比▲7.1%と、事前予想の▲5.0%を上回るマイナス幅となりました。

・パフォーマンス分析

当月は、豪ドルやスウェーデン・クローナの買建てなどがプラス寄与した一方、ユーロや米ドルの売建てなどがマイナス寄与し、全体でマイナスのパフォーマンスとなりました。

・投資行動

当月は、米ドルとユーロについて、フォワードレート変化の観点やイールドカーブ変化の観点で魅力度が高まったことから、それぞれ売建て比率を引き下げました。一方、英ポンドとスウェーデン・クローナについて、イールドカーブ変化の観点で魅力度が低下したことから、それぞれ売建て比率の引き上げ、買建て比率の引き下げを行いました。

・運用方針

当月は、実質金利などの観点で魅力度が高い豪ドルと日本円を買建て比率上位とする一方、実質金利やフォワードレート変化、イールドカーブ変化の観点で魅力度が低い英ポンドと、フォワードレート変化やイールドカーブ変化の観点で魅力度が低いユーロを売建て比率上位としています。

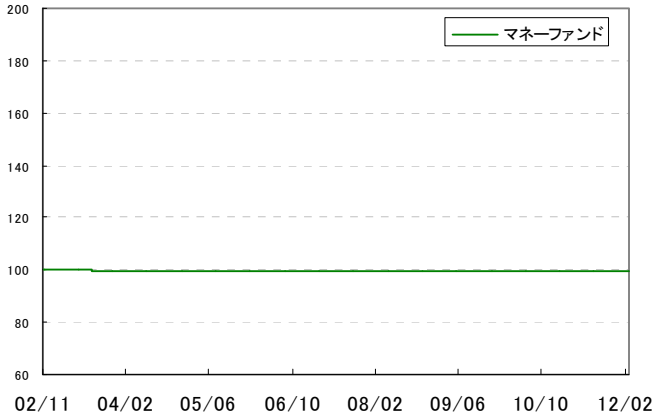
※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉 マネーファンド

他のファンドで運用している資金の一時待機を目的に安定した運用を目指します。
主に国内の公社債および短期金融商品を中心に投資することにより、安定した収益をあげることが目標にします。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
マネーファンド	▲0.01%	▲0.04%	▲0.07%	▲0.14%	▲0.38%	▲0.81%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	6.9
投資信託	93.1
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興MRF(マネー・リザーブ・ファンド)

マネーファンドの主な投資対象である「日興MRF」の運用コメントをご参考のため掲載します。
(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈組入資産の種類毎の組入比率〉

区分	比率
国債証券	67.0%
地方債証券	0.0%
特殊債証券 (除く金融債券)	0.0%
金融債券	0.0%
普通社債券	0.0%
CP	0.0%
CD	0.0%
その他資産	33.0%
合計	100.0%

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。
※「その他資産」は、コール・ローン、指定金銭信託、現先取引、未収金、未払金等です。

〈組入資産の発行体別組入比率(上位10)〉

公社債(国債、地方債、特殊債を除く)			短期金融資産		
順位	発行体名	比率	順位	発行体名	備考
1			1		
2			2		
3			3		
4			4		
5			5		
6			6		
7			7		
8			8		
9			9		
10			10		

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。
※「短期金融資産」は、CP、CDです。

〈格付別構成比率〉

公社債		短期金融資産	
格付	比率	格付	比率
AAA	0.0%	A-1	0.0%
AA	67.0%	A-2	0.0%
A	0.0%	A-3	0.0%
BBB以下	0.0%	NR	0.0%
		その他資産	33.0%
A相当以上	0.0%	A-2相当以上	0.0%
	0.0%		0.0%
合計	67.0%	合計	33.0%

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。
※公社債の「A相当以上」及び短期金融資産の「A-2相当以上」は、投資信託協会自主ルール「MMF等の運営について」の規定に基づき当社が作成したガイドラインで判断したものです。上段は1社の指定格付機関による格付があるもので、下段は指定格付機関の格付がないものです。
※「その他資産」は、コール・ローン、指定金銭信託、現先取引、未収金、未払金等です。
※国内発行体はR&I、JCR、Moody's、S&P、Fitchの順に優先して適用し、海外発行体は、Moody's、S&P、Fitchの順に優先して適用しています。
※日本の国債、政府保証債はAAA格、格付を付与されていない地方債は、AA格に含めています。
※政府が保証しているCPはA-1に含めています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡保険金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる満期保険金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。

保険会社の業務または財産の状況の変化により、保険金額、給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

諸費用について	ご契約の締結・維持、死亡保障にかかる費用および特別勘定の運用にかかる費用があります。払込保険料からこれらの費用を差し引き、残りを運用対象額として特別勘定に繰り入れます。したがって、払込保険料の全額が特別勘定で運用されるものではありません。なお、これらの費用は、性別・契約年齢などによって異なり、金額や割合を表示することができませんのでご了承ください。また、これらの費用はご契約後、特別勘定からも定期的に控除されます。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、移転一回につき1,000円を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
投資信託の 信託報酬	日本株投資力学ファンド 年率2.1%程度(投資信託の運用成績により変動します。)
	日本株ジバングファンド 年率1.806%程度(投資信託の運用成績により変動します。)
	日本株エポリューションファンド 年率2.0475%程度(投資信託の運用成績により変動します。)
	日本株インデックス225ファンド 年率0.546%程度
	日本株インデックスTOPIXファンド 年率0.546%程度
	グローバルグロースファンド 年率1.365%程度
	グローバルソブリン債券ファンド 年率1.124%程度
	グローバルリートファンド 年率1.575%程度
	グローバルカレンシーファンド 年率1.5%程度
マネーファンド 年率1.0%以内(投資信託の運用成績等により変動します。2012年2月末:年率0.03217%)	

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新ユニット・リンク保険(有期型)「LifeDO」・「LifeDO80」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新ユニット・リンク保険(有期型)には複数の特別勘定グループが設定されており、「LifeDO」・「LifeDO80」には「特別勘定グループ(日興型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(日興型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(日興型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新ユニット・リンク保険(有期型)「LifeDO」・「LifeDO80」は現在販売しておりません。